山村塾は都市と農山村の住民が一緒になり、環境にやさしい米づくりや
豊かな生態系の森づくりを通じて山村の環境を守るグループです

２０２２年１２月号

こめづくり もりづくり ひとづくり

山村塾通信

「ケヤキ林 150 年　いろいろな生き物が住む森」

山林コースが活動する通称「ケヤキ林」は、黒木町で一番標高が高い竹山（905.3 m）の山頂近く（標高 780 m付近）にあります。その昔は雑木山で尾根部にはアカマツも生えていたそうです。戦後に宮園福夫さんのご両親が徒歩で通いながら炭焼きを行い、その後にスギを植樹しました。戦後の復興のため木材需要が高まり、全国で針葉樹の植林（拡大造林）が進められた頃のことです。

しかし、植林したスギが 35 年生に育ったとき、平成 3 年（1991 年）の台風被害によりそのほとんどがなぎ倒されてしまいました。平成 3 年の 17 号・19 号台風は全国で 6 万 ha の森林が被害を受け、とくに九州北部の被害は甚大なものでした。これらの森林被害をきっかけに、スギ・ヒノキ一辺倒の森林を見直し、広葉樹を中心とした森林をつくろうと、グリーンコープ連合の関係者とその生産者グループであった黒木有機農業の会（※）が協議を重ね、宮園家の被災林がモデル林となり、1993 年 3 月に生協関係者によってケヤキ、イヌエンジュ、ミズキなどの広葉樹植林が行われました。また、それと重なるように毛利家・椿原家・宮園家の 3 家族によって山村塾設立の話が進み、1994 年 4 月に棚田で合鴨稲作を行う稲作コース、いろいろな生き物が住む森づくりを目指す山林コースの会員募集が行われ、山村塾が設立されました。

その後、ケヤキがうまく育たなかったことから、故・重松敏則九州大学名誉教授（当時、九州芸術工科大学教授）に相談をしたところ、「こんな環境にケヤキは育たない」と指導され、山林コースの活動としてヤマザクラの補植、風よけのためのスギ植樹を行い、ケヤキも少しは育ってきました。

来年の春は最初のケヤキを植えてから 30 回目の春です。ケヤキ林のゴールまであと 120 年ありますが、ずいぶんと森らしくなり、いろいろな生き物の姿も見られるようになってきました。そこで今後のケヤキ林をどのように管理し、利用していくか、将来像を描きながら、皆さんと一緒に考える機会を設けたいと考えています（2023 年予定）。いろいろな生き物の中には、いろいろな人たちも含まれると思いますので、多くの皆さんのご意見やアイデアをお待ちしております。どうぞよろしくお願いします。（小森 耕太）

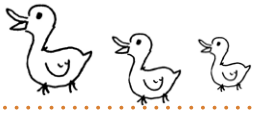
（※）黒木有機農業の会…椿原家と宮園家が所属するグリーンコープ生協の生産者グループ

山林コース活動　ケヤキ林の下草刈り（7 月）

■ 3 年ぶりの収穫祭が中止

椿原家と宮園家、事務局にて、天気予報とにらめっこしながら時間や場所を工夫して行えないか議論いたしましたが、総勢 100 名近くとなる参加人数であり、雨の中で感染対策をとりながら実施することは難しいと判断せざるを得ませんでした。３年ぶりの収穫祭であり、中にははじめての収穫祭を楽しみにしていた方もいらっしゃったことと思います。大変申し訳ない思いでいっぱいですが、ご理解の程よろしくお願いします。来年は雨にも負けない収穫祭を企画しましょう！！

稲作コースより



夏の米づくりは草との戦いです。アイガモも田んぼで働いてくれていますが、アイガモの手が届かないところは人の手が必要となります。

今年の稲作コースは「田の草取り・草刈り」の回数を増やし、8 月と 9 月にも行いました。

7 月と 8 月は田んぼの中に入っての草取り。稲そっくりの雑草「ヒエ」を見分けながら草取りしました。9 月は棚田の石垣から伸びた草を、ノコ鎌を使って手刈りしました。7 段分の石垣がみごとにきれいになりました。いずれも暑い中での作業でしたが、大人数でおしゃべりしながらだとあっという間で、みんなで力を合わせる凄さと達成感を感じた 1 日となりました。

9 月の台風 14 号の影響で稲が倒伏した場所もあり、10 月の稲刈りでは、倒れた稲を起こしながらの作業となりました。いつもより大変でしたが、無事においしいお米を収穫できました。今シーズンの米づくりも、たくさんのご参加ありがとうございました。今年の実りに感謝し、お米をたくさん食べましょう！（原 愛子）

日付	行事名	会員	一般	WC	スタッフ	計
8/7	田の草取りと草刈り②	11	0	1	7	19
8/21	鴨の引き上げ	33	0	0	8	41
9/4	田の草取りと草刈り③	17	5	0	8	30
10/8	稲刈り①	22	3	0	8	33
10/9	稲刈り②	37	2	1	8	48

意外と夢中になる田の草取り！（8/7）

農家の声

皆様、お変わりなかですか！

久しぶりにペンを取りましたが、今年もあっという間に年末を迎えようとしてますね。

あれやこれやと世の中変わり果てながら、不安が多い昨今。それでも朝・昼・夕のごはんは、質の良いバランスのとれた食事をする。今はこれに結論づけてます。（平和なことですね）

今年の稲刈りも、昨年と同様晴天に恵まれ、スムーズに進み、うまい米が出来上がりました！秋冬野菜もずいぶん成長し（少々雨不足！）気温が下がれば下がるほど、霜に合いながらうまみに変わる冬野菜！しかし今夏の気温の上昇（38 度！）で、6 月収穫のジャガイモが土の上でヤケドした状態になりました。40 年作っていますが、初めての経験！半分以上放棄することになりました。温暖化、気候変動には、百姓も英知を養いながら、そして猪と知恵比べしながら前進するのみです。

今は亡き山下惣一氏（一度四季菜館にも訪れて頂きました）の本の中に、「農健やかにして食健やか。食健やかにして人健やか。」という言葉があります。農業の「の」の字も知らない親が、買うことしか知らない子を育て、またその子が親になる現状です。

また、菊池養生園の竹熊宜孝医師の言葉に「医は食に、食は農に、農は自然に学べ」とあります。日々私も感銘を受けながら、初心に帰り、改めて山村塾の指針を振り返っております。

今年も一年間、本当にお世話になりました！まだまだコロナ禍で思うようには活動できませんが（料理もカレーばかりで申し訳なかです！）皆様のご健康とご多幸をお祈りするばかりです。

行事ごとの農産物のご注文、そしてまた今回の年末の農産物のご注文と、お願いすることばかりですが、心より感謝致しております。来年もまた、よい年をお迎えくださいますように！

四季菜館
椿原 まり子

山林コースより

10 月の山林コースは、「枝打ち」を変更して、「森の手入れ」を行いました。山村塾の森づくりフィールド「ケヤキ林」の上部にある、アカマツ植林地での除伐作業です。

アカマツは植林して 15 年ほど経ち、見上げるほどの大きさに育っていましたが、周囲に生えてきた他の木々に囲まれ、鬱蒼として踏み入れがたい雰囲気でした。そこで今回は、ノコと剪定ばさみで、アカマツ以外の中低木やツルなどをすべて伐り出して、林の外に集積しました。するとだんだんアカマツの姿が現れ、林の中が明るくスッキリとしていきました。（この作業は成果が目に見えるので達成感があり、夢中になります！）

アカマツは日当たりの良い場所を好むので、これでまた元気を取り戻してくれると思います。作業はあと半分ほどの面積が残っており、11 月の活動で続きを行う予定です。

実はこのアカマツ林は、私が大学生のころ植林をし、周囲の遊歩道を整備した思い出の場所なのです。こんなに大きくなって！と感慨深いです。

ケヤキ林には、エリアごとに様々な木を植えており、一周できる遊歩道もあります。将来どんな森になるといいだろうかと、みなさんと考えながら、これからも森づくりの活動を続けていけたらと思います。子どもたちの参加も大歓迎です。ケヤキ林での活動を一緒に楽しみましょう！

（原 愛子）

日付	行事名	会員	一般	WC	スタッフ	計
10/16	森の手入れ ＠ケヤキ林	6	0	2	4	12

アカマツ以外の木をひたすら伐って出します

明るくなったアカマツ林
将来マツタケが生えてくるようになるかも！

笠原の山々も赤や黄色に色付き始め、秋の深まりを感じるようになりました。

今年は 3 年ぶりの収穫祭の予定でしたが、日曜日の天気予報は雨。金曜日に残念ながら中止の判断をすることとなりました。楽しみにしていた多くの会員さん、年明けの左義長でお会いしましょう。実際に日曜日だけ雨でした。

コロナ感染症もなかなか収束せず、第 8 波の声も聞かれています。お茶を飲んで、カテキンで菌に打ち勝ち、季節の食べ物と発酵食品で体の抵抗力を高め、今後も感染しないように気をつけましょう。

最近の我が家は、椎茸の収穫や、植菌に向けての原木の準備をしています。その合間に、お正月用の干し柿作りや、冬野菜の手入れなど。先日（11/14）は、ボランティアのときちゃんとみーちゃんに手伝ってもらい、今年度初の炭焼きをしました。次回 12/11 に里山ミニワークで炭焼きをしますので、参加よろしくお願いします。今年最後の山林コースの行事です。私も、頑張って昼食を作ります。

また、山林コースの山の幸を準備でき次第発送したいと思っております。楽しみにお待ちください。

山林コース
宮園 佐津美

ボランティアレポート　2022 夏・秋

中長期個人型ボランティア

…1 か月以上の期間、えがおの森に滞在しながら活動するボランティア。この夏・秋は 3 名のボランティアが活躍しました。

カメさん
4.24 ～ 8.31

4 カ月間、山村塾でいろんな活動に取り組み、本当にいろんな経験をしてきました。

笠原にお住まいの人たちは本当に優しくて思いやりのある人が多く、いろんなところで声をかけてくださり、それが励みになりながら山村塾の活動に取り組むことができました。草刈り、ラッキョウ収穫、米作りなどなど、他にもたくさんのこと経験させて頂いたのですが、どれをとっても初めての経験ばかりで苦労することが多かったです。そういった慣れないことを、この地域の人たちは分かち合い、真摯になって話を聞いて下さって、そういった積み重ねが僕にとって貴重な活動力になっていました。山村塾の会員さんや活動を共にする人たちも同じく、慣れないことを経験しつつ思いを共有し互いに支えあうことで、笠原で楽しく過ごすことができていたのだと思います。

山村塾事務局の皆さんには最初から最後までお世話になりっぱなしで感謝しております。僕が今まで農業に関わることがなく、山での生活に慣れていなかったので、生活面や活動内容によってご迷惑をおかけすることがたくさんありました。それでも優しく丁寧に対応して頂き、おかげさまでなんとか最後まで活動することができました。こういった皆さんの支えがあるからこそ、僕のように他所からやってきた人が笠原のことを好きになっていくことができるのだと思います。

直接お別れの挨拶をすることができなかった方がたくさんいて、残念と思っているのですが、いつかまたどこかで元気な姿でお会いできることを楽しみにしています。そのときは、笠原の棚田を眺めながら、山村塾での思い出を語り合えるといいなと思います。短い時間でしたが、同じ時間を共有できて楽しかったです。山村塾スタッフとして皆さんと関わることができて、本当にありがとうございました。（カメさん）

ときちゃん
10.3 ～ 11.15

みーちゃん
10.10 ～ 11.24

10 月～ 11 月の 1 か月半、えがおの森に滞在しながら、稲刈りや畑仕事、農家手伝い、イベント・研修受入のサポートなどを行いました。

黒木 youth ワークキャンプ

7.24 ～ 8.4

夏の 11 日間、高校生対象の「黒木 youth ワークキャンプ」を開催し、東京と大阪から高校生 2 名が参加しました。田んぼの草取り、ヤギの世話やラッキョウ定植作業などに取り組みました。

ボランティアの活動レポートは、
ブログで発信中です！
https://egaonomori.exblog.jp

日帰りボランティア

7 月 27 日～ 11 月の期間に、計 8 回実施し、延べ 39 名の方々に参加いただきました。

【作業内容】田んぼ仕事（草取り、稲刈り）、ラッキョウ畑の手入れ（定植、草取り、電気柵設置）など。

▶ 12 月以降も、月に 2 回程度、薪づくりなどの活動を予定しています。ご参加お待ちしております！詳細はホームページをご覧ください。

スリランカ便り

冨吉 満之

6月からスリランカに滞在中の
山村塾会員・冨吉さんによる、レポート連載です。

2. 続・食生活編

日本に一時帰国した後、10月下旬に家族と一緒にスリランカにきました。

子供たち2人は、初めての海外の地で戸惑いながらも、しなやかに適応していっているように見えます。もちろん、色んな苦労もしつつ。

まずは食べ物。前回も紹介したカリーは辛いものが多く、うちの子供の口に合わないようです（スリランカの子供にとっては普通！！）。首都のお寺に滞在した時、子供たちが食べられるものが少なく、困りました。お坊様の前で「これイヤ、あれもイヤ」と連呼する子供たちを、思わず叱り飛ばしたりもしましたが、お坊様も気を使ってくださり、パン（けっこう贅沢品！）を毎回出してくださいました。食パンにバターやジャム。我が家の日本での暮らしではお米を中心にしていましたが、異国の地ではそう簡単にはいきません。でも、色々な食事を経験する中で、「これは美味しい」というものも分かってきました。

長男はミルクティーが大好きになりました。これは、砂糖がたくさん入っていて甘いからなのですが、イギリスの植民地時代が長かったスリランカでは、紅茶の生産が盛んであると同時に、「ティータイム」の習慣も普及しているようです。一方、近年では健康志向の人達の中でグリーンティーを飲む人も出てきているようです。（ちなみに、私も日本から八女茶を持って行って、毎日飲んでいます）。あるスーパーで売ってるグリーンティーは、50gで220スリランカルピー（約90円）でした。

次男はバナナが大好きです。食事バランスを考えて、なるべくバナナを食後に食べるようにしていますが、次男は熱心にどのバナナが美味しそうかを選んでいます。私の経験則ですが、バナナを適度に食べていれば快便です。

写真１　コムギ価格の上昇

またパンがぜいたく品と書きましたが、コムギの多くを輸入しているこの国では、コムギの価格も上がっているようです（写真１）。

写真２　田んぼの様子（9月）

なお、現在（11月）は雨季です。ほぼ毎日、雨が降ります。肌寒く、洗濯が大変です。田んぼでは田植え前で水が張られています。コメは1年に2～3回栽培するようです（写真２）。

とみよし・みつゆき
久留米大学経済学部 准教授

その他の活動報告

日付	活動内容	会員	一般	WC	スタッフ	計
8/27・28	里山ミニワーク「棚田の草刈り」	8	2	1	1	12
10/29	全体行事「鴨さばき①」	18	2	1	8	29
10/30	全体行事「鴨さばき②」	13	0	2	8	23

編集後記

ケヤキ林について調べていたら、とある報告書を発見。15年前の活動に私も参加していたことを思い出し、驚きと懐かしさでいっぱいに！もうすぐ30周年の山村塾。記録をちゃんとまとめておきたいです。この夏からSNSやホームページのお知らせ欄に、活動報告をこまめに掲載しています。ぜひ覗いてみてください！（原 愛子）

山村塾のSNS発信中

Facebook

Instagram

事務局より

会員募集中！

■ NPO 会員：山村塾の趣旨に賛同し、会員として私たちの活動を継続的に応援してくださる NPO 会員を募集しています。総会での議決権を持つ「正会員」と、議決権を持たない「賛助会員」があります。
■活動コース会員：いっしょに田んぼや山で働く活動コース会員（稲作・山林、稲作、稲作 30kg、山林、古里）をいつでも募集しています。

ご寄附のお願い

山村塾の活動は、皆様からのご寄附で支えられています。山村の暮らしに学び、山村の環境を守る取り組みに、ぜひご協力をお願いいたします。
【山村塾は「認定 NPO 法人」です】
・山村塾へのご寄附は、確定申告をすることで寄付金控除の対象となります。
・認定 NPO 法人の要件として、毎年 100 名以上の方からの寄附（3,000 円以上）を目標としています。

▶ご寄附の方法

■郵便振込口座から
加入者名：特定非営利活動法人山村塾
口座番号：０１７９０－３－１６９３９８
■銀行から
・銀行名：ゆうちょ銀行　店名：一七九（店番：１７９）
口座：当座　０１６９３９８
・銀行名：福岡銀行　黒木支店
口座：普通　１０８５３９８
特定非営利活動法人山村塾 理事長 小森耕太
※銀行からお振込みされた方は、お名前とご住所またはメールアドレスをお知らせ下さい。
■農産物を買う
会員の方が、椿原家と宮園家の農産物・林産物を購入されると、その一割がヤマヤマ基金へ入ります。
■古本で寄付ができます！
古本や DVD を「きしゃぽん」にお送りいただくと、買取金額が山村塾への寄付となります。ぜひご協力をお願いします。（古本集荷依頼 TEL：0120-29-7000、山村塾に寄附したい旨をお伝えください。）

会員状況（2022 年 10 月時点）

▶ NPO 会員
【正会員】　個人：37 名、団体：4 団体
【賛助会員】　個人：73 名、団体：2 団体
▶ 2022 年度活動コース会員
稲作・山林：7 名、稲作 22 名、稲作 30kg：18 名、山林：13 名、古里：7 名
▶笠原棚田米サポーター
87 名（個人 83 名、企業・団体 4 名）

寄附者（2022 年 7 月～ 10 月）

▶個人からのご寄附：
2022 年 7 月 1 日から 10 月 31 日までに、14 件 233,943 円のご寄付を頂きました。ありがとうございました。
▶企業・団体からのご寄附
・古本募金きしゃぽん様を通じてご寄附をいただきました。（8/26：229 円、9/20：476 円）
・7/29、KDDI 株式会社九州総支社様から社員参加型の社会貢献活動「＋αプロジェクト」を通じて、388,750 円のご寄附をいただきました。棚田や森林の保全活動に役立たせていただきます。

山村塾 今後の予定

日程	行事名
12/11（日）	里山ミニワーク「炭焼き」※
1/7（土）	左義長準備
1/8（日）	全体行事「左義長」
2/4（土）・5（日）	山林コース「しいたけ菌打ち」
2/12（日）	里山ミニワーク「農産物加工（みそづくり）」
2/26（日）	山林コース「炭焼き」※
3/5（日）	稲作コース「棚田の石垣草取り」
3/12（日）	山林コース「植林」※

※年間予定から日程を変更して開催します

▶行事および里山ミニワークの開催については、状況に応じて随時判断します。最新情報はホームページ、メールニュースにてご案内します。
※ FAX や郵送でのご連絡を希望される方は、事務局までお知らせください。

＼お問い合わせ大歓迎！／

山村塾　認定 NPO 法人 山村塾
〒 834-1222　福岡県八女市黒木町笠原 9836-1
TEL・FAX 0943-42-4300
Email：info@sansonjuku.com　HP https://sansonjuku.com
FB　@ sansonjuku　Instagram　@sansonjuku_official

発行者：小森 耕太
編集者：原 愛子

※山村塾は認定 NPO 法人です。山村塾へのご寄付は寄付金控除の対象となります。

最新情報はホームページより
山村塾　検索